

# 徳島ペンクラブ通信

発行

徳島ペンクラブ

徳島市東沖洲2丁目1-13

徳島県教育印刷(株)内

TEL 088-664-6776

180号

2018年7月10日

(平成30年)

1967年(昭和42年)創立

平成30年度定期総会

5/20

## 新会長に丁山俊彦さん 竹内会長は顧問に

徳島ペンクラブの平成30年度総会は、2018(平成30年)5月20日阿波観光ホテルで開かれました。出席は35人。議長に竹内菊世会長を選出し、平成29年度事業・決算・会計監査の報告が行われ、いずれも承認しました。2年毎の役員改選では、竹内会長が勇退し顧問に、丁山俊彦副会長を新会長に、上窪青樹理事を副会長に任ずる新役員案を承認しました(平成30年度・新役員表は2頁)。続いて丁山新会長が議長となり、平成30年度事業計画・予算案を審議し承認され、総会を終了しました。

竹内菊世会長が、「本日をもって辞任いたします。50年の歴史があるこの団体は、先輩たちの努力の賜であり、皆さんのご協力で5年間、つとめることができました。高齢化社会の将来を見ると会員数減になります。文学、本、書くことが好きな人がいれば、誘って、新会員を1人でも多く増やし、より活性化してください。」と、ご挨拶されました(会場より大きな拍手)。

講演では、会員の板東浩氏が「日野原イズムと音楽で健やかなベストエイジングを」と題して、約1年前に105歳の現役医師で亡くなられた日野原重明先生との出会いや、日野原イズムの目標を持ってkeep on goingの考え方をプロジェクトの動画で紹介しながら、テンポのいいお話をされ、あつという間に1時間がたちました。

ごあいさつ

丁山俊彦



ペンクラブに入会して50年もの月日が流れようとしています。入った早々から事務局の仕事をやるハメになってしまったのですが、このことが今の自分を育ててくれたのだと思っています。初代の黒田会長をはじめ錚々たる先生方の警咳に接することができたのも、ペンクラブの仕事させてもらったからです。県立文学書道館の常設展示作家には4人もの歴代会長

が選ばれています。そんな偉大な会長の方々の後塵を拝することの大変さを痛感しております。

文学書道館の常設展示作家には元会長ばかりでなく、10人もの会員だった方々が選ばれておりますことはペンクラブにとって大きな誇りであります。また文学書道館建設にあたっては当ペンクラブ会員の尽力が大きな推進力となりました。皆さんの少しずつの協力が大きな力を生むものと思っています。ペンクラブは創設50年にもなりましたが、文学は永遠です。オープンガーデンが盛んなようですが、多くの人をペンクラブという開かれた「文学の庭」に誘いたいと思っています。ご協力のほどよろしく申し上げます。

新

### ホームページ

徳島ペンクラブのホームページを新しくしています。そのために現在一時休止しています。新ホームページに御期待下さい。



平成30年度定期総会にて講演中の板東浩氏  
(平成30年5月20日 阿波観光ホテル)



## 平成30年度「徳島ペンクラブ」新役員

(敬称略・順不同)

- ▽顧問 竹内菊世
- ▽参与 上野 隆 岸 積 木村喜美子 蔭山美紗子
- ▽会長 丁山俊彦
- ▽副会長 田上倉平 西池冬扇 上窪青樹 鈴木綾子 上窪則子
- ▽理事 安曇統太 木村英昭 辻本一英 山口久雄 高木 純
- 福島誠浄 東根泰章 船越淑子 竹内紘子 萬宮千鶴子
- 関真由子
- ▽監査 新開英毅 二橋満璃
- ▽会計 小川公三
- ▽事務局 鈴木綾子(兼任) 正木孝枝 山崎純世 渡辺恵子

### 永年、事務局長で尽力

## 桂 豊さんに感謝状

永年、徳島ペンクラブの事務局として多大な貢献をされた桂豊さんに、6月15日、徳島市応神町の「豆珈炉」で感謝状をお贈りしました。

桂さんを交えてペンクラブの歴史、また今後のペンクラブのあり方、特に若い人たちにも魅力ある文学団体を目ざす等、話に花が咲きました。



桂 豊さんを囲んでの役員

賞」を設け、形を変えて顕彰を続けていくと決まりました。  
(詳細は第20回とくしま随筆大賞募集要項に掲載)

5月30日、三好市で開催された富士正晴全国同人雑誌賞実行委員会において、三好市議会の事業見直しにより高校生文芸誌賞(文芸誌甲子園)を残し、全国同人雑誌賞は取りやめとなりました。

徳島ペンクラブ二十周年記念事業として開催した「富士正晴展」を発端に出身地の山城町が創設、平成十三年に郷土が生んだ作家を讃える第一回「富士正晴全国同人雑誌賞」が催されました。徳島ペンクラブが一次審査を担当するなど、以後三年に一度の開催に深く関わってきました。

## 第20回とくしま随筆から

## 「富士正晴賞」を創設

(高等学校文芸誌賞は継続)

「富士正晴全国同人雑誌賞」取りやめ

春の文学散歩

ひょうたん島「橋づくし」ツアー

平成30年4月30日 ● 参加者22名

三回目となる春の文学散歩は野上彰の会との合同企画で実施しました。野上彰と親交の深かった三島由紀夫の小説「橋づくし」に因み「ひょうたん島橋づくしツアー」と銘打つての散策は、小説の始まりと同じく三つの橋が重なる佐古三ツ合橋から出発。ふれあい橋までの八つの橋を巡りました。

それぞれの橋の謂れや川沿いに点在する文人達の碑の解説など盛り沢山の逍遙は、晩春の心地好い風と文学の香に包まれ、ゆったりと至福の文学散歩となりました。

この日のために東京から野上彰長女の藤本ひかりさんが、駆けつけられました。新町橋の南西畔の碑前で、父と川端康成・三島由紀夫など文人達との想い出話をされました。また、参加者ひとりひとりと声を交わすなど今回の企画に花を添えて頂きました。



ツアーに参加した皆さん(藤本ひかりさんを囲んで)

(詳細は選集36号に掲載します)

エッセー

今年もまた、納屋の軒下につばめが来た。ずっと昔からほぼ毎年来ており、前年と同じ巣に戻る傾向があるようである。季節の家族と言えりかもしれない。四か月ほどの間に、子育てを二回見守ることになる。

かれらは、主に東南アジアの南の地から、何千キロとかを命がけで渡って来るらしい。次の年に再び日本までたどり着けるのは、少しだけとか。いつもなく、「お疲れさま。いらっしやい。」と出迎えてきた。

今年も、どうやら傷んだ古い巣を素早くリフォーム、すぐ雛の音が聞こえはじめた。巢一杯の雛が、餌をくわえた親鳥をいっせいに口を開いてつぶつぶの姿がほほえましい。親鳥は、飛ぶ昆虫などを空中で捕獲し雛の口に運ぶ、

軒下

ほとんど休みなく。

ひとは、特に子供を育てているときなど、こんないのちの姿に励まされたりする。子供のわずかな成長に気づく喜びもそのなかで覚える。ただ、慌ただしく追われる日々が、実は最も輝いていたと感じるようになるのはずっと先のこと。かれらが相当大変なことを当たり前に行っている姿を見ると、自然にやさしくなれそうである。

天敵のカラスやスズメを防ぎつつやりきる子育ても、雛鳥の不安げな巣立ちとともに終わる。ときには舞い戻っていないか巣を見上げ、姿がなければ元氣だろうと一安心。巣立つと、夏の終わりまで葦原に集い餌を食べて力を蓄え、南へ渡っていくという。歌にある少数の越冬つばめもいるようだが。

軒下のつばめにひそかな声援を送りながら、この頃、ひとの泣き笑う雛をあまり見なくなつたのが気にかかる。

(山本泰生)

## 平成29年度 徳島ペンクラブ事業報告

事業名	内容	期 日
50周年関連行事 1) ペンクラブ選集 (兼・50周年記念誌)	年1回刊行しているもので今年度はPART35 ペンクラブ賞 渡辺恵子さん 次点 辻本一英さん 六田靖子さん	6月末各原稿締め切り 10月発行および発送 ペンクラブ賞投票 表彰式 平成30年2月18日 (第5回研修会)
2) 50周年記念式典	創立50周年記念祝賀会	10月9日(月・祝日) 阿波観光ホテル
3) 県民文化祭 50周年記念行事	徳島ペンクラブ創立50周年記念展覧会 過去・今、そして未来へ 「とくしま物語50年」	10月20日(金) ～22日(日) 文学書道館
ペンクラブ通信	会員への通知、ニュース等	3月 6月 12月
とくしま随筆大賞	第18回 審査員 徳島大学教授 依岡隆児氏 徳島新聞 生活文化部部次長 柏木康浩氏 徳島ペンクラブ会長 竹内菊世 (大賞、準大賞は作品をペンクラブ選集に掲載) 大賞 佐倉 順「光つないで」 準大賞 大本 泉「眉山のささやきから、百五十日」 佳作 村上瑛一「明日更に好く」 佳作 中村あゆみ「トンネルの先」 佳作 手束雅夫「二度寝の前に」 佳作 湯浅恒子「千羽鶴の縁」 奨励賞 高橋晴香「読書の楽しみ」	表彰式 10月9日(月・祝) 阿波観光ホテル 午前10時より
文学散歩	春 第2回文学散歩 「モラエスの歩いた道」新町から眉山山麓を 南進して二軒屋駅前まで歩く	4月29日
文学旅行	秋 愛媛県松山市 子規記念館 砥部町 とべ動物園	11月12日
研修 講演	講演とペンクラブ賞授賞式、懇親会 講演 西条敏美氏「徳島の女医史研究事始」	30年2月18日 阿波観光ホテル 終了後 懇親会
理事・執行部会	毎月第3土曜日に開催(会場の都合で変更あり) その他、必要に応じて理事会・委員会を開催	基本的に定例、毎月第3土曜日・午前10時から文学書道館
主催事業	平成29年度徳島県民文化祭分野別フェスティバル 徳島ペンクラブ創立50周年記念展覧会 「過去・今、そして未来へ」 とくしま物語50年	10月20日から22日 文学書道館
協力事業	理事会で協議し、必要と認めた依頼事業 (文学関係)の支援・後援・共催事業など	
	野上彰の会「野上彰没後50年記念アカシア祭」	5月20日 13時30分より シビックセンター
	徳島現代詩協会 「中四国詩人会徳島大会」	9月30日 阿波観光ホテル

## 平成29年度 収支決算

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

A 収入総額	3,498,351円
B 支出総額	3,250,639円
C 差引額	247,712円 (次年度へ繰越)

## A 収入の部 (単位:円)

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
会 費 収 入	685,000	700,000	平成29年度会費 5,000円×137人=685,000
負 担 金 収 入	1,318,000	800,000	50周年記念誌(選集 part35)掲載料 649,000 2頁 7,000円×65人=455,000 3頁 9,000円×1人=9,000 4頁 11,000円×7人=77,000 6頁 15,000円×3人=45,000 その他 3人=63,000 会合出席者負担金(総会・祝賀会他) 669,000
補 助 金 収 入	450,000	500,000	県民文化祭助成金 0 50周年記念事業助成金 450,000
寄 付 金 収 入	504,693	300,000	各種寄付金他(50周年広告料等) 504,693
雑 収 入	81,214	20,006	祝金・利息 81,214
未 収 金 収 納	255,000	255,000	前年度会費 5,000 県民文化祭助成金28年分 250,000
前年度繰越金	204,444	204,444	
計	3,498,351	2,779,450	

## B 支出の部 (単位:円)

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
事 業 費	1,877,387	1,500,000	ペンクラブ選集印刷代 1,360,800 ペンクラブ通信印刷費 123,120 徳島随筆大賞関係 150,561 研修会その他 242,906
通 信 費	291,893	300,000	事務局 50,000 50周年記念(選集35号)発送費 86,832 ペンクラブ通信発送費 57,704 その他通信費 97,357
会 議 費	331,676	400,000	理事会・役員会他 79,676 総会 252,000
諸 会 費	7,000	10,000	徳島市文化協会会費等 7,000
慶 弔 費	5,000	20,000	
事 務 費	16,113	10,000	事務用品(インク・用紙他) 16,113
特 別 事 業 費	698,899	350,000	県民文化祭参加事業「50周年記念」 310,741 祝賀会他 388,158
雑 費	22,671	40,000	振込手数料等 22,671
予 備 費	0	149,450	
計	3,250,639	2,779,450	

平成29年度の収支決算について監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成30年4月7日

会計監査 新 開 英 毅 (印)  
 会計監査 二 橋 満 璃 (印)

## 平成30年度 徳島ペンクラブ事業計画

月		事業	詳細
4月	13日	県民文化祭 第2回企画委員会	イベント企画開始 テーマ決定
	30日	文学散歩	ひょうたん島「橋づくし」ツアー
		第19回とくしま随筆大賞募集開始	広報・各種マスコミ・学校関係
	初旬	① ペンクラブ通信 No179発行	ペンクラブ賞授賞式・研修会・文学碑パネル展他
5月	3日	県民文化祭 第3回企画委員会	展示内容 役員体制
	20日	徳島ペンクラブ総会 於：阿波観光ホテル	第1部 講演 内部講師 板東浩氏 テーマ「日野原イズムと音楽で健やかなベストエイジングを」 第2部 総会 第3部 懇親会
6月	30日	とくしま随筆大賞 応募締切	
	末頃	② ペンクラブ通信 No180発行 県民文化祭 第4回企画委員会	
7月		とくしま随筆大賞 審査	一次審査 二次審査
		県民文化祭 第5回企画委員会	
8月		とくしま随筆大賞 発表	入賞者発表(徳島新聞掲載・受賞者に連絡)
		ペンクラブ選集 part36 企画開始	
		県民文化祭 第6回企画委員会	
9月	9日	とくしま随筆大賞 表彰式 於：阿波観光ホテル	第1部 表彰・講評・朗読 第2部 会食
		③ ペンクラブ通信 No181発行	主な内容 ペンクラブ選集 part36の原稿募集・特集案内、 県民文化祭イベント・文学旅行の案内等
10月	26日	第20回県民文化祭 諸準備	展示 設営等
	27～28日	第20回県民文化祭 分野別フェスティバル・イベント 於：県立文学書道館	田中富雄生誕100年記念展 「田中富雄とその時代の作家たち」 展示・座談会・朗読会
11月		秋の文学旅行	検討中
12月	末頃	徳島ペンクラブ選集 part36 発刊	(同封書類) ペンクラブ賞の投票依頼：投票用紙(ハガキ) 研修会およびペンクラブ賞授賞式の案内
2月		徳島ペンクラブ賞 表彰式 於：阿波観光ホテル	第1部 表彰式 第2部 研修会(講師：外部講師) 第3部 懇親会(ランチ会食：ペンクラブ選集について感想を語り合う)
3月		とくしま随筆大賞 企画	募集要項作成 後援依頼

50周年記念企画 文学碑パネル巡回展		開催期間
1	吉野川市川島町図書館	4/2～4/15
2	徳島市シビックセンター	4/24～5/6
3	美波町日和佐図書・資料館	5/12～5/30
4	三好市中央図書館	6/2～6/20
5	鳴門市キョーエイ鳴門店	6/27～7/4

- ① 役員会：毎月1回実施します。  
基本的に第3土曜日10：00～12：00(会場の都合で変更の場合もあります)
- ② 企画委員会：各事業については企画委員会を開いて原案を作成し、役員会で決定します。

## 平成30年度 収支予算

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

A 収入総額	2,167,718円
B 支出総額	2,167,718円
C 差引額	0円

## A 収入の部 (単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
会 費 収 入	650,000	700,000	平成30年度会費 5,000円×130人=650,000
負 担 金 収 入	700,000	800,000	選集 Part36掲載料 460,000 会合出席者負担金 総会 6,000円×40人=240,000
補 助 金 収 入	250,000	500,000	県民文化祭助成金 250,000
寄 付 金 収 入	3,000	300,000	各種寄付金他 3,000
雑 収 入	20,006	20,006	ペンクラブ選集等売上代金 20,000 利息 6
未 収 金 収 納	297,000	255,000	前年度会費 5,000 県民文化祭助成金29年度分 292,000
前年度繰越金	247,712	204,444	
計	2,167,718	2,779,450	

## B 支出の部 (単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
事 業 費	1,100,000	1,500,000	選集 Part36印刷代 800,000 ペンクラブ通信印刷代 100,000 徳島随筆大賞賞金等 100,000 講演会・研修会 100,000
通 信 費	250,000	300,000	選集・通信発送費 150,000 その他発送費他 100,000
会 議 費	300,000	400,000	理事会・役員会等 60,000 総会 240,000
諸 会 費	10,000	10,000	徳島市文化協会会費等
慶 弔 費	20,000	20,000	
事 務 費	10,000	10,000	事務用品代他
特別事業費	350,000	350,000	県民文化祭参加事業「田中富雄」展 300,000 文学碑パネル巡回展 50,000
雑 費	40,000	40,000	振込手数料等
予 備 費	87,718	149,450	
計	2,167,718	2,779,450	

※各科目間の流用を認める

2. とくしま随筆大賞の実施
3. 役員会の開催
4. その他、目的達成のための諸事業

#### (会 計)

第9条 本クラブは会費、補助金、その他の収入でまかなう。

第10条 会費は役員会で定める額とする。

第11条 本クラブの会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### (退 会)

第12条 退会する場合は速やかに未納金を納入して、事務局に届け出なければならない。所定の会費、誌代を理由なく2年以上の未納者については、役員会の決定により除名する。

#### (事務局)

第13条 本クラブの事務局を、会長の指定するところに置く。但し、会計に関する事務は会計理事が行うものとし、会計理事宅に置く。

#### (規約の改正)

第14条 規約の改正は、総会の承認を得なければならない。

### 内 規

#### (役員 の 解 任)

役員として2年間連絡なく会議等に出席しなかった場合は役員会の承認を得て解任する。

#### (会 費)

年会費は5,000円とする。

#### (ペンクラブ選集掲載料)

見開き2ページ(標準)7,000円

1ページ増えるごとに2,000円とする。

#### (ペンクラブ賞)

1. 「ペンクラブ賞」は毎年発行される「ペンクラブ選集」に投稿された会員の作品の中から、会員の投票と選考委員会(役員会)の審査によって選ばれる。
2. 「ペンクラブ賞」に賞状を授与し、数点を「次点」とする。

1967年(昭和42年)12月1日施行

2018年(平成30年)5月20日改訂



## 徳島ペンクラブ規約

### (名 称)

第1条 本会は徳島ペンクラブ（以下「本クラブ」という）と称する。

### (目的・会員)

第2条 本クラブの会員は、徳島県在住の文筆に親しむ者とし、互いに啓発・親睦し、協力して郷土文化の向上発展に寄与することを目的とする。

### (入 会)

第3条 徳島県在住もしくは出身の文筆に親しむ者であって、入会を希望する者は、理事1名の推薦を受け、所定の手続きと役員会の承認を経て入会できる。入会を希望する者は、入会時に会費を納入しなければならない。

### (役 員)

第4条 本クラブに次の役員をおく。

1. 理事若干名。総会で選ばれ、役員会を構成し、会務を審議する。理事より会長1名、副会長若干名、及び事務局長、会計理事を選ぶ。
2. 監事は総会において選任する。監事は本会の経理を監査する。
3. 会長は本会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した副会長がその職務を代行する。役員は役員会を構成し、重要な会務を審議する。
4. 会長経験者は顧問として就任し、会費は免除する。
5. 副会長経験者を参与に委嘱し会務について諮問を受ける。

### (役員任期)

第5条 役員任期は2年とする。ただし再任をさまたげない。

### (会 議)

第6条 総会は年1回とし、臨時総会は必要に応じ、会長が招集する。総会の議長は会長が行う。議案に関しては、出席者の半数以上の賛成を持って採決とする。

第7条 役員会は適時必要に応じ会務の審議および決定を行う。

### (事 業)

第8条 本クラブは、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 徳島ペンクラブ選集の刊行



# 徳島ペンクラブ選集の原稿

## 長文(散文)と短詩型(韻文)

### 本年度から表彰

毎回好評を博しています「徳島ペンクラブ選集」の中から優秀な作品を選んでいますが、今年から選考基準が変わり、2部門となりました。

2部門は、●長文(散文)と

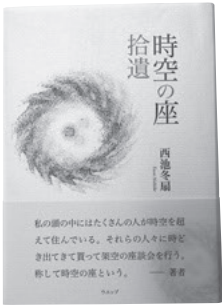
●短詩型(韻文)で、今回より

短詩型(韻文)が新たに加まりました。

詳細は、ペンクラブ通信の次号に掲載します。



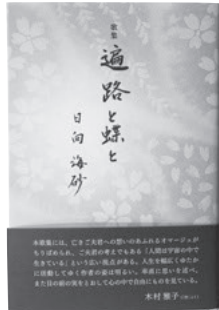
西池冬扇さん「時空の座拾遺」を2018年4月に出版されました。「俳句通信」2006年から2015年に掲載されたエッセーの中から、43編を選んでまとめられたものです。四六判、228頁。



## ほんの散歩道

出版された方は、ご連絡下さい

小林光子さん(ペンネーム・日向海砂)明治神宮秋の大祭で特選となった歌をはじめとする短歌集「遍路と蝶」を2018年4月に出版されました。四六判、231頁。



### 新入会員

(敬称略)

安永 潔 〒774 0042

阿南市横見町五反地56の18

山本枝里子(再入会) 〒771 1252

板野郡藍住町矢上字春日93の1

近藤 純子 〒773 0011

小松島市新居見町字柳内34の1

## 「田中富雄とその時代の作家たち」資料をご提供ください

文学企画展を10月27日から28日まで開催します。今回は「田中富雄とその時代の作家たち」のテーマで準備しています。

田中富雄と同人誌「徳島作家」関連の著作物・書簡等の資料をお持ちの方はお知らせ下さい。

## 編 集 後 記

2年毎の役員改選で、丁山新会長となり、理事会の名称を役員会と変えての新スタートです。竹内前会長の流れを受け継ぎながら、新しい文字組みの世界を築きたいと思います。

永年に亘り、事務局を担当された桂豊さんが、療養のために一時休会されました。写真・DVD・パネル・案内状等、振り返ると頭が下がるばかりです。ありがとうございました。